

子ども心相談

2005.03.03

インフルエンザは2月の中旬から私のクリニック周辺でも本格的な流行になり、それまでの比較的軽症なB型の流行から、症状の重いA型がごく少数見られるようになりました。主に流行しているB型のインフルエンザはワクチンの効くタイプなのですが、ここ何年かB型の流行があまりなく住民全体の抗体保有率が少なかったことが流行の要因となり、それがワクチンを打っても効かないのではと噂で広がっているようです。私は、ワクチンを打っている人は比較的軽症に済んでいると思うのですが、皆さんはどう感じていますか？

さて、開業して1年ちょっと、このコラムを書いているからなのでしょうがクリニックを訪れてくれる子どもにも恵まれて、楽しくでもちょっと疲れる毎日を送っています。そんな中、一番気がかりなのは、もっとじっくりお話を聞いてあげたいのだけど短時間で終わってしまう心の叫びを内に秘めた子どもたちです。以前にも書いた子どもたちの他にも、学校に行けない、ストレスで髪を抜いてしまう、お母さんとの関わりをうまく持てないなどなど、できるだけ時間を割いてお話を聞いている気持ちにはなっているのですが、子どもの口からいろんな言葉や表現を引き出すという本当はもっともっとなければならないことができていません。子どもも大人も自分の思っていることを言葉にしたり表現したりすることで、心のバランスをとっています。バランスを失った子どもの心を解決に結びつけるには、子どもに「あなたはあなたのままでいい、大切な存在だよ」と伝えることと、お話を聞くということに長け、言葉や表現の中にある心の叫びに寄り添い、バランスを戻す気づきを与えてくれる臨床心理士とのタッグマッチが必要です。開業した当初からぜひやりたいと思っていた「子どもの心相談」が函館市内に住む臨床心理士の方をお呼びして、4月から実現することになりました。子どもの相談の経験の豊富な方ですので、きっと子どもたちの強い味方になってくれるのではと思っています。